

祝 辞

日本化学会 会長 向 坊 隆

高分子学会が創立 30 周年を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。日本化学会が、現在、シンポジウムの共催などを通じて密接に協力している関連学協会の数は 30 を超えるに至っておりますが、高分子学会はその中でも最も盛大に活動しておられる学会の一つであります。

30 年前といえば、1930 年代に発展した合成繊維や合成ゴムなどの研究開発がすでに相当な水準に達していた時代でありますから、高分子学会の設立は、まさに時宜を得たところであり、設立後、急速に発展されたのは当然のことでありました。わが国の高分子化学工業が、この 30 年の間に非常な発達を遂げ、世界でも最も高い水準の仲間に入りえたことについて、同学会の果たされた役割は極めて大きなものがあったと信じます。

一方、1960 年頃から、わが国はいわゆる石油時代に入り、エネルギー源をはじめ、化学工業の主要原料も石油に大幅に依存するようになりました。1973 年の石油危機以来、石油価格が異常な早さで高騰した結果として、わが国の化学工業の大部分が、大きな打撃を受け、経済的に苦しい状況に追い込まれていることは周知の通りであります。おそらく高分子化学工業も例外ではないと存じます。

しかしながら、高分子化学が大きな発展を遂げ、高分子製品がわれわれの生活に必要な欠くべからざる大切な原材料となっていることを考えますと、この産業が現在の苦境を克服して一層の発展を目指すことは、わが国産業界の抱える諸問題の中でも極めて大きな課題の一つと考えられるのであります。

石油価格が上がってしまったことは事実であり、わが国が工業諸国の中でも特にこの点で不利な状況にあることは否定できません。したがって、この問題の解決は容易なことではなく、一方に基礎的な学問分野で独創的な成果があげられるとともに、工業においても新製品や新しいプロセスの開発に今まで以上の努力の注がれることが必要と思われまます。

このような意味におきまして、高分子学会が 30 周年の機会に提示されました記念事業の諸項目は誠に適切なものであると深く敬意を表します。これらの諸事業が順調に進められ、学会の活動が一層盛んになって斯界の発展のために貢献されることを心から期待し、御祝辞に代える次第であります。

祝 辞

日本化学工業協会 会長 丸 田 芳 郎

高分子学会設立 30 周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

周知のように、化学工業界は現在大変な試練に遭遇しており、難局打開にけんめいの努力を重ねている最中でありまます。打撃をこうむった直接の原因は、原油の急激な高騰からわが国化学工業が、原料・エネルギー価格において著しく国際競争力を喪失したことにより、原料・エネルギー対策を手をこまねいているわけではありませんが、資源に乏しいわが国にあって、米国、カナダやサウジと全く同条件に並ぶことは、これは望むべくもありません。

そういう意味で、わが国の今後の化学工業のすすむべき途が、技術開発力を生かして川下志向を目指し、より少ない原料でもってより付加価値の高い製品を生み出していく方向にあることは論



をまたないのであります。とすれば、高分子化学はそのなかにあつて本命というべく、機能性高分子、生体高分子などがもたらす新しい化学の領域こそ、明日の日本の化学工業の中核にすべき存在でありましょう。

このように考えますと、今年、高分子学会が30周年の記念の祝典を挙行されますことは、われわれにとってこの上なくよろこばしく、またたのしい快挙でありまして、衷心よりお祝い申しあげ次第でございます。

高分子学会に対するわれわれの期待は、何物にも比べようがないほど大きなものがあります。どうか、今後ますますご発展を遂げられ、日本の化学工業の将来のために業績をおあげになりまして、われわれをご指導賜りますよう心からお願い申し上げます。高分子学会への期待と感謝のことばをもってお祝いにかえさせていただく次第であります。

祝 詞

石油化学工業協会 会長 土方 武



このたび、社団法人高分子学会が設立30周年を迎えられましたことを衷心よりお祝い申し上げます。

顧みますれば、昭和26年に旧(財)日本合成繊維研究協会および旧(財)高分子化学協会を引き継ぎ、貴学会が設立された頃はわが国の高分子科学とその工業の大発展の開始期であり、ポリエチレン、ポリスチレンとも年間わずかに約130tを輸入消費しているにすぎない時期でありました。

その後、わが国の高分子科学とその工業は著しい進歩と発展を遂げ、現在では世界最高の水準に達しており、私どもの協会でも取り扱う四大汎用樹脂の年間生産量をみましても、低密度ポリエチレン120万t、高密度ポリエチレン70万t、ポリプロピレン

90万t、ポリスチレン系110万tに達するに至っております。

その間常に高分子科学の学会活動の中心となられ、わが国の高分子科学とその工業の啓蒙、発展に貢献してこられました貴会が設立30周年を迎えられましたことは真にご同慶にたえないところであります。

今日では、高分子材料は私どもの生活の隅々にまで浸透し、それなくしては生活が困難なほどにまで広く利用されるに至っております。私ども高分子材料を供給する者はその社会的責任を十分に認識すると同時に、今後ともより一層有用な高分子材料を社会に供給する責務を負っているものと存じます。

しかしながら、近年の原料事情は30年前には想像もしえなかったほど困難な状況に立ち至っておりますし、また従来の一握りの先進国のみによる供給体制から今日では発展途上国も含めた多くの国による供給体制へと変化してきており、原料、生産、技術開発のあらゆる面で今後ますます国際間の熾烈な戦いが繰り広げられるものと思われ、高分子工業も正に正念場を迎えることにならうかと思われまふ。このような状況下で今後ともわが国高分子工業を世界最高の水準に維持いたしますためには、従来以上にわが国の高分子科学・技術を充実、発展させ、量から質への転換を名実ともに実施する必要があるものと思われまふ。

かかる時代の趨勢を考慮され、21世紀への展望をもって貴会が設立30周年記念事業を企画されましたことは真に時宜を得たものであり、同事業のご成功を祈念いたしますとともに、今後さらに貴会がわが国高分子科学およびその工業の発展のために、ますますご活躍されますことを期待いたしまして、お祝いの言葉といたします。